

## ガラスびんに関する自主行動計画の2010年度フォローアップ結果

### ガラスびんリサイクル促進協議会

#### 【リデュース】

| 2010年度目標                               | 2010年度取り組み実績   |
|--|--|
| 2004年(基準年)対比で2010年に1本当たりの重量を1.5%軽量化する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2010年実績として、基準年(2004年)対比で1本当たり1.7%の軽量化がはかられ、目標を達成した。</li> <li>1本当たりの単純平均重量は基準年(2004年)の192.3gに対し、180.5gで6.1%(11.8g/本)の軽量化がはかられたが、これには容量構成比の変化が含まれているため、その要素を除いたネットの軽量化率は1.7%(3.3g/本)となった。</li> <li>・なお、2010年の単年度で新たに軽量化された品目は、8品種27品目であり、軽量化重量は2,743トンであった。</li> </ul> |

#### 【リユース】

| 2010年度目標            | 2010年度取り組み実績   |
|---------------------|--|
| リターナブルシステムの調査研究を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域型びんリユースシステム再構築に向けた調整と取り組み準備をおこない、環境省の「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」への参画準備と共に、「びんリユース推進全国協議会」(2011年9月設立)の立上げ調整をおこなった。</li> <li>・関係他団体(日本酒造組合中央会、容器リユースを普及させるための検討会ほか)と連携したびんのリユース推進事業の取り組みをおこなった。</li> <li>・WEBサイト「リターナブルびんポータルサイト」の内容更新と情報発信をおこなった。</li> </ul> |

#### 【リサイクル】

| 2010年度目標  | 2010年度取り組み実績  |
|---|---|
| <p><b>【カレット利用率】</b><br/>エコロジーボトル(その他色カレット多量利用)の普及を図るなどして、カレット利用率91%を達成する、が当初の目標。</p> <p><b>【リサイクル率】</b><br/>2008年にリサイクル率70%以上の達成を目標に追加。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標として設定した「カレット利用率」の2010年実績は96.8%であり、目標を達成した。</li> <li>・原料としてカレットを90%以上使用したエコロジーボトルの2010年出荷実績は122百万本であり、基準年(2004年)対比126.5%と拡大した。</li> <li>・「リサイクル率」の2010年実績は67.1%となった。目標の70%には届いていないが、基準年(2004年)比では+7.8%と向上した。</li> <li>・「化粧品びん」の分別収集促進については、日本容器包装リサイクル協会と連携の上、未分別収集自治体への個別アプローチをおこない、2011年3月現在42.6%の自治体での分別収集へ拡大。</li> </ul> |

#### 【広報活動】

| 2010年度目標   | 2010年度取り組み実績  |
|--|---|
| 3Rを推進するための自主設計ガイドライン(ガラスびんの組成、質量、形状、ラベル、キャップ等に関する事項)を策定し、製造・利用事業者への周知・徹底を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガラスびん3R推進事例として、ガラスびん軽量化商品のWEBサイトでの情報発信をおこなった。</li> <li>・容器利用事業者(中味団体)に対する「ガラスびん3R進捗報告会」を8月に開催し、ガラスびんの3R取組進捗と課題の共有化をおこなった。</li> <li>・「エコプロダクツ2010」に加え、東京パック、新宿区3Rイベントほかに参加しガラスびんの3Rについて直接広報活動を実施した。</li> </ul> |

## 【リデュース】（軽量化・薄肉化）

### ①一本当たりの重量変化

2010年実績として、基準年（2004年）対比で1本当たり1.7%の軽量化がはかられ、目標としていた基準年対比1.5%を達成することが出来た。

1本当たりの単純平均重量は基準年（2004年）の192.3gに対し、2010年実績は180.5gと6.1%（11.8g/本）の軽量化がはかられたが、これにはびん容量構成比の変化が含まれているため、その要素を除いたネットの軽量化率は1.7%（3.3g/本）となった。【表1】

残りの4.4%（8.5g/本）はびん容量構成比の変化によるものである。

なお、基準年（2004年）対比での軽量化による資源節約量は、2006年～2010年（5年間）で、92,237トン（100mlドリンク剤びん換算 7億6864万本）となった。

【表1】 1本当たりの平均重量推移

|                     | 2004年<br>(基準年) | 2006年     | 2007年     | 2008年     | 2009年     | 2010年     |
|---------------------|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 本数（千本）              | 7,262,950      | 7,158,306 | 7,049,797 | 6,846,912 | 6,653,700 | 6,771,964 |
| 重量（トン）              | 1,396,582      | 1,343,925 | 1,313,830 | 1,266,242 | 1,213,075 | 1,222,525 |
| 単純平均重量<br>(g/本)     | 192.3          | 187.7     | 186.4     | 184.9     | 182.3     | 180.5     |
| ネット軽量化率指標<br>(加重平均) | 100.0          | 99.0      | 98.7      | 98.6      | 98.2      | 98.3      |
| 軽量化による<br>資源節約量（トン） | —              | 13,575    | 17,305    | 17,979    | 22,236    | 21,142    |

### ②軽量化実績

2006年から2010年までに軽量化された主な品目は、11品種128品目となった。【表2】

なお、軽量化実績の捉え方は、前年と同容量で軽量化された品目について限定しており、容量変更が伴う場合や、新製品の軽量びんは対象外としている。

【表2】 2006年から2010年までに軽量化された品目

| 品 種      | のべ品目数  |
|----------|--|
| 小びんドリンク  | 小びんドリンク（4品目）   |
| 薬びん      | 細口びん（2品目）、広口びん（1品目）  |
| 食料品びん    | コーヒー（17品目）、ジャム（6品目）、粉末クリーム（2品目）、食用油（1品目）、蜂蜜（1品目）                       |
| 調味料びん    | たれ（7品目）、酢（9品目）、ソース（2品目）、新みりん（2品目）、つゆ（6品目）、調味料（9品目）、ケッチャップ（1品目）、醤油（1品目） |
| 牛乳びん     | 牛乳（5品目）  |
| 清酒びん     | 清酒中小びん（14品目）   |
| ビールびん    | ビール（2品目）   |
| ウイスキーびん  | ウイスキー（4品目）   |
| 焼酎びん     | 焼酎（12品目）   |
| その他洋雑酒びん | ワイン（12品目）  |
| 飲料びん     | 飲料ドリンク（1品目）、飲料・サイダー（4品目）、ジュース（3品目）                                     |

## 【リユース】（リターナブルびんの普及）

### ① リターナブルびんのPRやモデル事業の実施

・経済産業省「地域省エネ型リユース促進モデル事業」環境省「リターナブルびん利用促進事業」などモデル事業に積極的に参画し、リターナブルびんのPRや効率的な回収方法について調査・研究をおこない、企画統一びんのリユース化事業や居酒屋チェーン企業と連携したPB清酒のリユース化事業など関係団体とも連携を強化の上、リターナブルびんの普及に取り組んだ。

・関係他団体（日本酒造組合中央会、容器リユースを普及させるための検討会ほか）と連携したびんのリユース推進事業の取組みをおこなった。

・また、量販店市場におけるリターナブルびんの取扱いや空びんの回収体制の可能性について研究をおこなうと共に、一般家庭市場での「リターナブルびん回収拠点マップ作り」に関して、全国びん商連合会と協議のうえ、段階的な地域拡大に取り組んでいる。

### ② リターナブルびんの使用量実績

・リターナブルびんの使用量については、経年的な減少傾向に歯止めがかからず、現在では家庭用宅配と業務用という一部限定市場での存続という状態であり、2010年使用量実績は125万トン（基準年比68.3%）となった。【表3】

・びんのリターナブル比率（リターナブルびん使用量÷（国内ワンウェイびん流通量+リターナブルびん使用量））は2009年から50.0%を割る結果となった。

【表3】リターナブルびんの使用量実績（単位：万トン）

|                        | 2004年<br>(基準年) | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 | 2010年実績<br>基準年比 |
|------------------------|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------------|
| リターナブルびん使用量            | 183            | 159   | 153   | 144   | 133   | 125   | 68.3%           |
| 国内ワンウェイびん量<br>(輸出入調整後) | 158            | 146   | 141   | 139   | 140   | 143   | 90.5%           |
| リターナブル比率～%             | 53.7           | 52.1  | 52.0  | 50.9  | 48.7  | 46.6  | —               |

### ③ リターナブルびん存続に向けた取組み

・2010年より、地域や市場特性に合わせた取組みを強化すべく、消費者・自治体・流通/販売事業者やびん商等関係主体の一層の連携を進め、地域型びんリユースシステム再構築に向けた取組み準備をおこなった。環境省の「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」（2011年）への参画準備と共に、びんリユース実証事業の取組み準備をはかり新たな推進体制として「びんリユース推進全国協議会」（2011年9月設立）の立上げ調整をおこなった。

・また、2009年2月に立上げたWEBサイト「リターナブルびんポータルサイト」にて、リターナブルびんのPRやリユース推進活動の「見える化」に取り組む、その内容更新と情報発信に努めた。

## 【リサイクル】（カレット利用の促進）

### ① カレット利用率の推移

・目標として設定した「カレット利用率 91%」については、ガラス容器製造業における再生材利用促進の向上に努め、2010年実績は96.8%と目標を達成した。【表4】

（カレット利用率とは、ガラスびん生産量に占めるカレット（再生材）の使用比率）

【表4】カレット利用率の推移

|                | 2004年<br>(基準年) | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 |
|----------------|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ガラスびん生産量(千トン)① | 1,554          | 1,472 | 1,433 | 1,386 | 1,330 | 1,337 |
| カレット利用量(千トン)②  | 1,409          | 1,382 | 1,368 | 1,343 | 1,297 | 1,295 |
| カレット利用率(%)②÷①  | 90.7           | 93.9  | 95.5  | 96.9  | 97.5  | 96.8  |

「ガラスびん生産量」：経済産業省「窯業・建材統計」

「カレット使用量」：日本ガラスびん協会資料及びガラスびんフォーラム資料

・再商品化市場の開発拡大を目的とした「カレットを90%以上使用するエコロジーボトル」の普及に努め、2010年出荷量は122百万本と基準年（2004年）対比126.5%と拡大した。

### ② リサイクル率の推移

・2008年からは、「リサイクル率（回収・再資源化率）」の指標を追加し、目標を70%と設定し、取組みを開始した。

「リサイクル率」は毎年向上し、2010年では67.1%となり、基準年（2004年）対比では、+7.8%となった。【表5】これは、びん分別収集の強化による成果であるが、直近2010年では、空きびん収集段階で細かく割れたガラスびん残渣の資源化が課題となっている。

【表5】リサイクル率の推移

|                  | 2004年<br>(基準年) | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 |
|------------------|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| リサイクル率(回収・再資源化率) | 59.3%          | 60.4% | 63.9% | 65.0% | 68.0% | 67.1% |

・「化粧品びん」の分別収集促進活動については、日本容器包装リサイクル協会と連携し全国の自治体にて実施し、2011年3月現在42.6%の自治体が化粧品びん分別収集を実施・計画中となった。

## 【自主設計ガイドライン／容器利用事業者(中味団体)との連携】

- ・アルミ箔ラベルを使用しない等、ガラスびんの3Rを推進するための「自主設計ガイドライン」(ガラスびんの組成、質量、ラベル、キャップ等に関する事項)を2007年3月に最終決定し、製造・利用事業者への周知・徹底に努めた。
- ・容器利用事業者(中味団体)に対する「ガラスびん3R進捗報告会」を毎年定期的に行い、ガラスびんの3R取組進捗と課題の共有化をおこなった。

## 【広報活動】

- ・ガラスびんの3R総合パンフレットとして「ガラスびんBOOK」を制作・配布し、容器排出方法については「ガラスびんの流れ(リユースとリサイクル)」ポスターと「あきびん以外のものを混ぜない!」リーフレットを制作・配布し、広報に努めた。
- ・WEBサイトでのガラスびん3R推進事例「ガラスびん軽量化商品」及び自治体関係コーナーでの「自治体ガラスびん分別収集好事例」を追加掲載し、情報発信力強化をはかった。
- ・2010年からは、小中学生を対象とした「ガラスびんポスターコンクール」を実施し、次世代に対する環境教育の観点から取組みの強化をはかった。
- ・「エコプロダクツ」への出展に加え、東京パック、新宿区3Rイベントほかに参加し、ガラスびんの3Rについての直接広報活動を実施した。